

脳卒中科初期臨床研修プログラム(選択科)

研修責任者 佐野 博康

研修期間 4週～

I. 研修目標

一般目標(GIO ;General Instruction Objective)

初期診療の一つとして脳卒中であるか否かを判断し、適切に対応できる(専門医に渡すなど)。

行動目標(SBOs ;Structural Behavior Objectives)

1. 指導医とともに脳卒中患者の病歴聴取、神経学的診察、検査を行い、脳卒中患者の診断の要点、診察法、画像診断について学ぶ。
2. 適切な診断の元、正しい治療方針を立てて実行する。

II. 方略

脳卒中科週間スケジュール

月曜日 15時より脳神経外科との合同カンファレンス

火曜日 9時より回診

木曜日 15時より多職種共同カンファレンス、16時より症例検討会・抄読会

*月～金曜日の9:00～17:00の外来・救急外来の緊急受診について随時対応する

研修場所：外来、救急外来、病棟、画像診断室、臨床検査室、エコー室

III. 評価

1. 2つのカンファレンス、および症例検討会では、自分の受け持ち患者についてプレゼンテーションをしてもらう。これに関する質疑応答を繰り返すことで受け持ち患者の病態に関する理解度を評価する。
2. ローテーション終了後の面接にて、知識・技能の学習成果の総合評価を行う。

IV. 他科・他職種との連携

1. 脳梗塞超急性期の血栓回収療法について、脳外科と密接に連携を取って対処しています。脳外科を選択され、この分野に興味を持った方は、脳外科研修終了後、引き続いて当科を選択されても良いかと思えます。
2. 脳卒中は様々な慢性疾患が進行した結果発生することが多く、当院各科にコンサルトしながら脳卒中以外の治療も並行して進めていくことが多いです。したがって、当科の疾患だけでなく、総合的に患者を評価する姿勢(全人的医療)が求められると思えます。
3. 脳卒中による症状(麻痺、認知機能の低下など)は生活全体に影響を与えることが多く、医療に携わるほぼすべての職種(看護師、言語聴覚士、作業療法士、理学療法士、臨床検査技師、管

聖隷三方原病院 臨床研修プログラム

理栄養士、ソーシャルワーカー等々)と連携を取りながら対応する必要があります。このようなチーム医療の重要性についても学んでほしいと思っています。

4. 上記2.3.については、慢性期医療(療養型病院、介護保険施設、在宅診療)で必要な考え方とされますので、将来その方面に進むことを考えている方は当科での研修を選択されると良いと思います。